

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立鱒川中学校

学級数 3

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標 見つめ、求め、伸びゆく生徒の育成
～ 見つめよう 求めよう 伸ばそう ～

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

1 取組のきっかけ

平成22年度まで「かかわり合いを通して学ぶ子どもの育成」を研究主題として設定し、相手意識や目的意識を持たせながら、かかわり合う場面を設定し、一人一人の課題に応じた指導・授業づくりの工夫を目指し、一定の成果を得た。一方で、個人差が大きく、基礎・基本の定着、自分で学習していく力、語彙力等の不足が課題としてあげられた。

そこで、「一人一人に応じた指導法の工夫」を研究主題とし（平成23年度）、現状と課題を多面的に把握するための個別指導計画の作成、補充学習の推進、家庭学習の定着を図り、研究を行っている。

2 取組の位置付け

教務部・研究係が中心となり、前期（小1～4年）中期（小5～中1年）・後期（中2～3年）ブロックと、小学校部会・中学校部会、教科担当者の連携を密にし、小中の接続を図りながら全校体制で取り組んでいる。

3 取組の方法

① 児童生徒個別指導計画

- ・長期目標（学年別到達目標）を達成させるために、短期目標を設定
→ 研究係＝基礎学力、教科担当者＝数学の基礎学力、教務係＝学習常規・家庭学習、生徒指導係＝生活面 の長期目標設定
→ 教科担当者＝基礎学力、学級担任＝学習常規・家庭学習・生活面の短期目標と指導の手立てを設定
→ 小・中学校部会（年8回）、ブロック研修（年7回）で個別指導計画の検証

② 補充学習

- ・数学の補充学習（個別指導、月2～3回）
→ 一人一人の思考パターンや誤答グセの把握 ← 小・中部会、ブロック研修での検証

③ 家庭学習

- ・国語、英語、数学は毎時間、宿題を出す。社会、理科は適時出す。宿題が授業に生かされるような授業展開を各教科で図っていく。＝内容は二層化（絶対やる宿題と余力がある生徒がやる宿題）
→ 学級担任＝家庭学習の数値化（毎週のチェック） → 小・中部会、ブロック研修で検証

- ①～③を繰り返しながら、短期目標が達成されることで、長期目標に近づく。
＝基礎学力と学ぶ意欲の向上

取組の成果と課題等

○ 取組の成果

- ・ 研修の中間反省をうけ、個別指導計画の改善を図りながら推進できた。
（成果）→「短期目標および手立て」の記載について、「長期目標」の通し番号を書くことで、短期と長期それぞれの目標がしっかりとリンクした。生徒の実態と照らし合わせ、今、何を学習の目標とすべきか教師側が考えることができた。
- ・ 研修日の意見交流をうけ、補充学習内容の改善を図りながら実施できた。
（成果）→個々の学力の傾向や効果が見てとれた。とくに、統一テスト（基準となるテスト）を4月・11月に実施し、補充学習によってどの部分がどれだけ伸びたかわかる取り組みがなされ、全員が4月より得点が上昇した。また、スモールステップと個別指導で、生徒のやる気が持続するようになった。
- ・ 家庭学習の定着が進んだ。
（成果）→家庭学習時間、ノートの提出数が向上した。保護者アンケートでは、家庭学習の定着の取り組みの項目で、C（改善を要する）評価が0になった。

○ 教育課程検証の方法

- ・ 学校評価項目を教師・保護者・地域で同内容に整理し直し集計（学校評価委員会）。評価結果を検討した上で、各分掌・学年・新年度準備委員会に付託済み。
- ・ 4月に本校で学習意欲アンケートを実施（3学期も実施予定）、11月には函館市学力向上プロジェクトの学習意識調査を実施。今後、教育課程編成上の参考としたい。